

九戸村地域公共交通計画

令和 6 年(2024)6月

九戸村

目 次

1. 九戸村地域公共交通計画の概要	3
1-1 策定目的	3
1-2 位置付け	3
1-3 計画期間	3
1-4 計画区域	3
1-5 本計画が想定する交通手段	3
2. 現況整理	4
(1) 地域特性	4
(2) 公共交通の状況	8
3. 公共交通の課題	11
4. 九戸村地域公共交通計画	14
5. 計画目標と評価指標	16
6. 適材適所の施策・事業	18
(1) 施策体系	18
(2) 公共交通施策	20
6. 計画の達成状況の評価	30
6-1 評価スケジュール	30
7. 計画の推進力	31
7-1 推進体制	31
<資料編>	32
(1) 住民アンケート	32
(2) 評価指標の設定根拠	36
(2)-1 評価指標①	36
(2)-2 評価指標②	36
(2)-3 評価指標③	36
(2)-4 評価指標④	36
(2)-5 評価指標⑤	36

1. 九戸村地域公共交通計画の概要

1-1 策定目的

九戸村地域公共交通計画は、本村が目指す将来像の実現に向けて、地域公共交通のあるべき姿を示すとともに、人口減少による利用者の減少等によりバス事業の収支状況が悪化する一方、高齢化により公共交通サービスの重要性が増している現況を踏まえて、本村の公共交通が抱える課題を整理し、将来的にも村民の生活を支える「持続可能な地域公共交通」の構築に向けた取り組みなどを定めるものである。

1-2 位置付け

本計画は、地域にとって望ましい地域公共交通サービスの姿を明らかにするマスタープランであり、上位計画である「第3次九戸村総合発展計画(2021年度～2030年度)」及び、国が定める関連法や村の関連計画等との整合を図りながら策定する。

1-3 計画期間

本計画の計画期間は令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5年間とする。

1-4 計画区域

本計画の対象は九戸村全域とする。

1-5 本計画が想定する交通手段

本計画では以下の交通手段を対象とする。対象の交通手段が相互に連携を図りつつ、本計画に位置付ける施策に取り組むことにより、本村が目指す地域公共交通ネットワークを構築する。

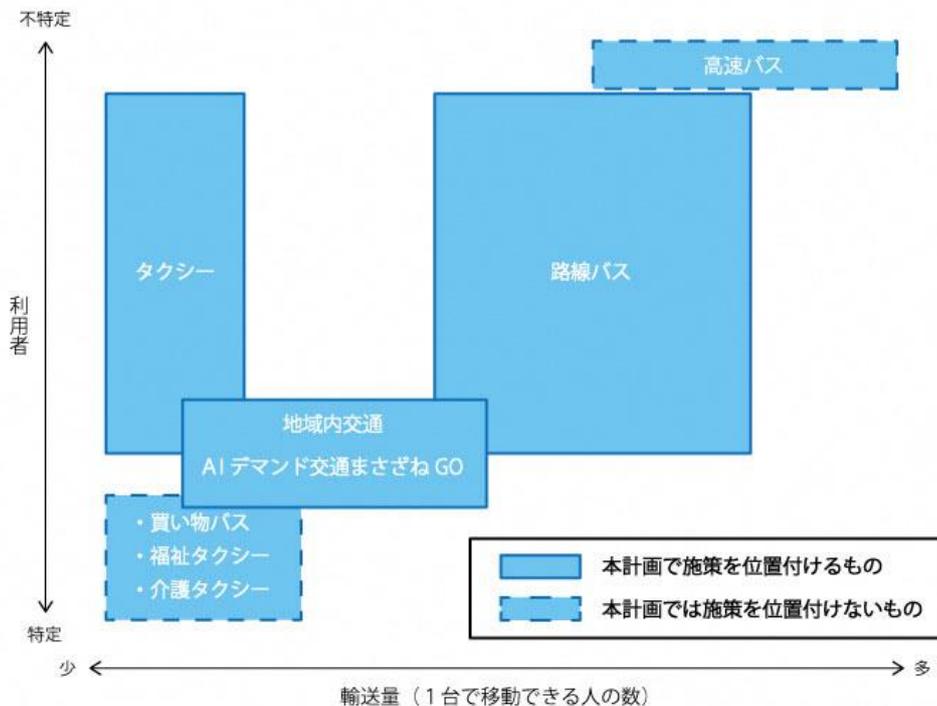


図 計画の対象とする交通モード

2. 現況整理

(1) 地域特性

(1)-1 地勢

本村は、盛岡市から北へ約 60kmに位置する農山村で、東西 9.7km、南北 19.4kmと南北に細長い地域であり、面積は 134.02km²である。西に二戸市と一戸町、南は葛巻町、東は久慈市、北は軽米町と接している。

昭和 30(1955)年に旧戸田村・伊保内村・江刺家村が合併して現在に至っている。役場や病院などの主要施設は伊保内地区に集中しているため、戸田・江刺家地区の住民は車での移動が不可欠となっており、車を運転できない高齢者にとって、同地区への移動手段として公共交通の重要性が増している。

幹線道路としては、村の中央部に国道 340 号線が南北に貫通しており、そこから東西方向に二戸九戸線、軽米九戸線、一戸山形線などが通じている。

(1)-2 人口の推移と予測

九戸村の居住人口は、令和 5(2023)年 11 月末現在で 5,251 人と、約 13 年前の平成 22(2010)年 3 月の 6,699 人から 1,448 人・21.6%減少している。また、国勢調査を基にした推計人口は、7年後の令和 12(2030)年には、人口は 4,141 人で高齢化率は 49.7%に達するとの予測がなされている。このように急速に進展する少子高齢化社会では、公共交通の体制を整備・維持する行政の役割が重要となっている。

表 九戸村の人口推移

区分	平 22(2010) 年 3 月	令和(2020) 年 3 月	令和 12(2030) 年 3 月(推計)	平成 22 年→令和 12 年の増減人数・率
年少人口(~14 歳)	710 人	534 人	369 人	-341(52.0%)
生産年齢人口 (15~64 歳)	3,702 人	2,710 人	1,712 人	-1,990(46.2%)
老年人口(65 歳~)	2,287 人	2,424 人	2,060 人	-227(90.1%)
高齢化率	34.1%	42.8%	49.7%	+15.6pt
九戸村総人口	6,699 人	5,668 人	4,141 人	-2,558(61.8%)

出所:国立社会保障・人口問題研究所

(1)-3 75 歳以上高齢者の運転免許返納状況

九戸村の 75 歳以上高齢者の運転免許返納率について、令和5(2023)年は 3.9%と、全国平均と同じ割合である。しかし、運転免許保有人口に占める 75 歳以上高齢者の割合は 12.2%であり、全国平均の 8.1%を大きく上回るため、運転免許返納の意識をより高めていく必要がある。

表 運転免許保有人口と 75 歳以上高齢者占有率・免許返納割合(令和5(2023)年)

	運転免許保有人口	75 歳以上 運転免許保有人口	75 歳以上の申請による運転免許の取消件数	75 歳以上免許人口占有率	75 歳以上の申請による運転免許取消割合
全国	81,840,549	6,665,052	261,569	8.1%	3.9%
岩手県	813,278	79,922	2770	9.8%	3.5%
九戸村	3,569	437	17	12.2%	3.9%

出所:運転免許統計・岩手県の免許人口

(1)-4 道路交通ネットワーク

村内を南北に貫通する国道 340 号線沿いに人口が集中しており、運行されている路線バスも同国道を中心とした運行経路となっている。しかし、小規模ではあるが、国道 340 号線以外の主要地方道や県道沿いにも集落が点在しており、それらの多くは路線バスの運行経路から外れ、公共交通空白地域となっている。

隣接する二戸市、軽米町、久慈市、葛巻町と本村の間では、1,400 人前後の通勤・通学者の移動があり、中でも二戸市との流動人口が全体の約半数を占めている。

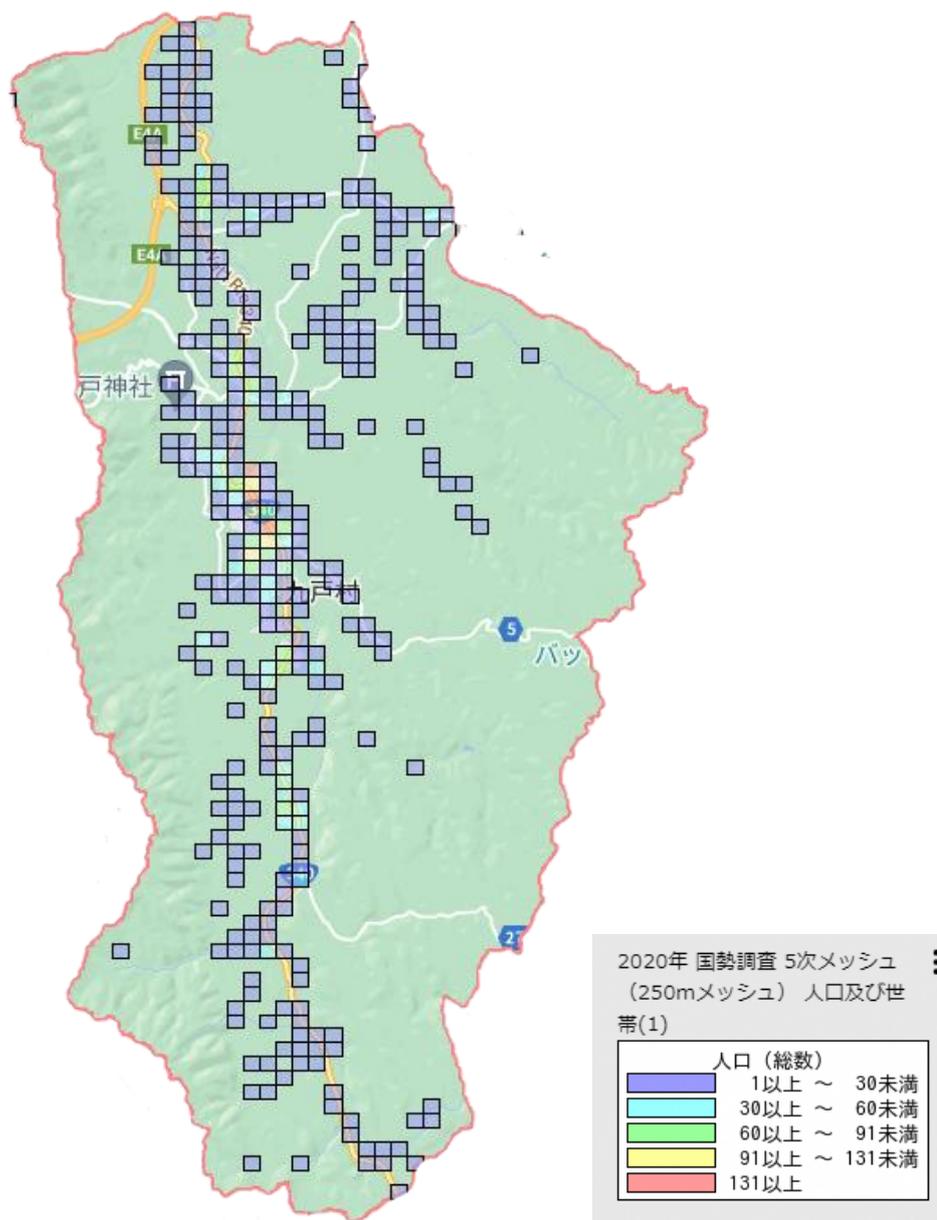


図 人口分布 出所:令和2(2020)年 国勢調査

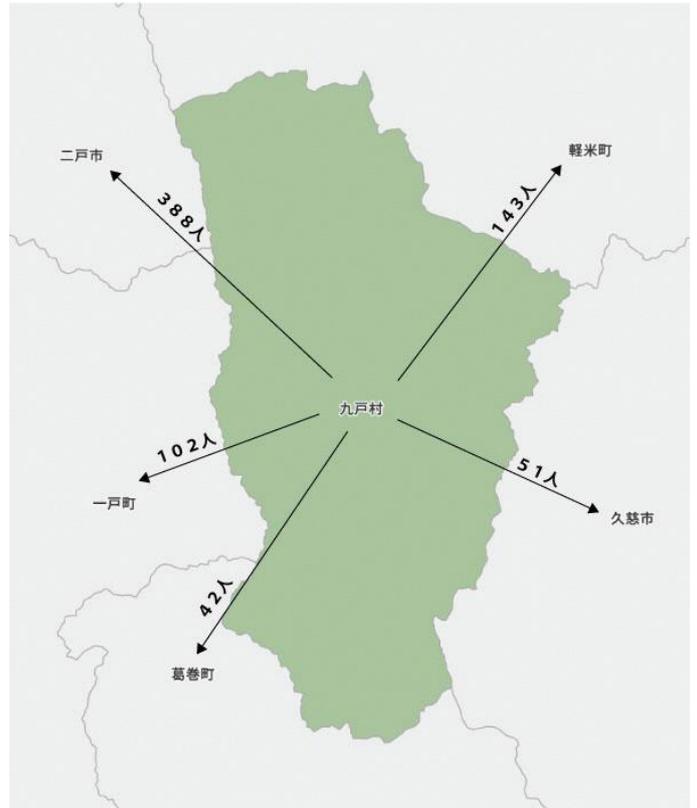
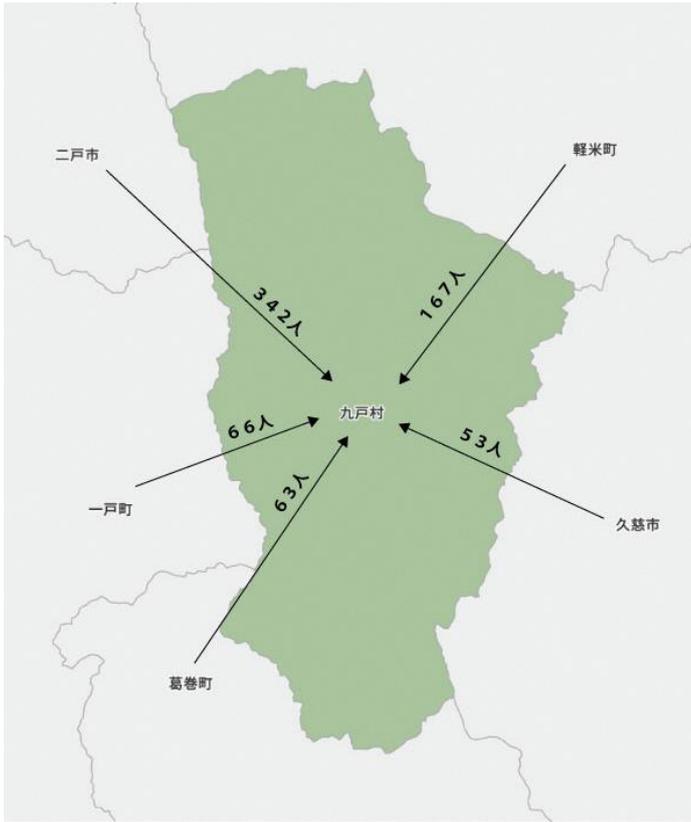


図 通勤・通学による流動人口 出所:令和2(2020)年 国勢調査

(2) 公共交通の状況

(2)-1 公共交通の運行状況

本村内を運行するバス路線は、岩手県外や盛岡市とを結ぶ長距離路線(高速バス)、隣接市町村との間を結ぶ広域幹線路線、九戸村内を運行する域内路線に分けられる。村内の移動は、長らく村内循環バスがその役割を担ってきたが、より利便性の向上を図るために、令和6(2024)年5月にその大部分を休止し、代わりにAI デマンド交通「まさぎねGO」の運行を開始している。

表 九戸村のバス路線

種類	路線名	運行区間	運行本数
長距離路線	盛岡八戸線(八盛号)	盛岡～九戸～八戸	1日1往復
	盛岡久慈線(こはく号)	盛岡～九戸～久慈	盛岡方面1日2便 久慈方面1日1便
	久慈東京線	久慈～九戸村～東京	1日1往復
広域幹線 路線	二戸線	伊保内～二戸駅	1日10往復
	二戸病院線	伊保内～二戸病院	1日1往復
	葛巻線	伊保内～葛巻	1日2往復
	二戸久慈線(スワロー号)	二戸駅～道の駅おりつめ～久慈駅	1日5往復
	軽米線	伊保内～軽米	1日3往復
	域内路線	村内循環バス第4便	
葛巻線		伊保内～瀬月内	1日1往復
江刺家1便		伊保内～雪屋～江刺家～伊保内	1日1便

表 バス路線以外の公共交通

まさぎねGO	運行内容は『表 AI デマンド交通「まさぎねGO」の運行概要』のとおり
タクシー	・伊保内タクシー
福祉有償運送	・合同会社ほほえみ ・合同会社げんき
買い物バス	九戸村社会福祉協議会が実施する移動支援事業

表 AIデマンド交通「まさざねGO」の運行概要

項目	内容	備考
愛称	まさざね GO	
運行事業者	岩手県北自動車株式会社	
事業種別	一般乗合旅客自動車運送事業（区域運行）	
運行方式	非固定ダイヤ型の区域運行方式（フルデマンド）	
営業区域	岩手県九戸郡九戸村内全域	
運送の区間	旅客が指定する乗降地点間	
運行車両	ワンボックス車両 2 台（乗車定員 14 名）	・南エリア・北エリア各 1 台 ・客席は 12 名
運行開始予定日	令和 6（2024）年 5 月 1 日	
運行日時	平日及び 7 のつく土日祝日 9 時～16 時	
発地の発車時刻	9 時から 16 時までの旅客予約に応じた時刻	
予約方式	電話及び専用 Web サイトから予約	
予約受付日程	利用希望日の 1 週間前から前営業日まで 電話受付：平日 9 時～16 時 専用 Web サイト受付：毎日 24 時間	・ただし、やむを得ない理由があり、九戸村が認めた場合は、当日予約を可とする
利用者	誰でも利用可能	・利用には会員登録が必要
運賃	1 乗車 100 円	・ただし、九戸村民である小学生・75 歳以上の方は運賃を九戸村にて負担
主たる乗降場所	岩手県北自動車の既存バス停 79 か所 デマンド交通専用の仮想バス停 120 か所 （ゴミステーション 64 か所、それ以外 56 か所）	・デマンド交通専用の仮想バス停には目印として看板を設置
決済方法	・現金、回数券及び無料券 ・デジタルチケット（RYDEPASS） ・QR コード決済（PayPay）	・回数券は車内にて販売 ・無料券は九戸村から対象者に交付

(2)-2 広域幹線路線の利用状況

隣接市町村との間を運行する広域幹線路線は二戸線(二戸病院線含む)、二戸久慈線(スワロー号)、葛巻線、軽米線の4路線であるが、いずれも運賃収入だけでは路線維持はできないため、国、岩手県、関係市町村からの補助金を充てて運行している状況である。二戸線は二戸市と九戸村間の高校生の通学利用があるものの収支状況は厳しい状態であり、他の2路線も同様である。

表 広域幹線路線の利用者数

路線	利用者数		
	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
二戸線	96,362人	86,543人	98,600人
二戸久慈線 (スワロー号)	16,689人	22,754人	30,003人
葛巻線	7,749人	12,967人	11,897人
軽米線	2,350人	2,458人	2,795人

※各年度は4～3月の合計

(2)-3 域内路線利用者数

村内循環バスは住民の生活路線として重要な役割を担い、特に令和2(2020)年度に75歳以上高齢者無料制度を開始してから、利用者は徐々に増加していた。しかし、運行ルート(バス停)から遠い集落や、地域によっては週1日の運行であったことから、利用しにくいという要望が出されていた。また、国道340号線を南エリアから中心部を経由して北エリアへ行き、また中心部へ戻る運行ルートのため、通院の予約時間に合わなかったり、バスの待ち時間の長さなどが指摘されていた。

表 域内路線の利用者数

路線	利用者数		
	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
村内循環	5,085人	4,870人	5,411人

※各年度は4～3月の合計

(2)-4 路線バスに対する九戸村の公的支援額

路線バス(広域幹線路線、域内路線)は、人口減少による運送収入の減少に加えて、人件費及び燃料、部品・資材等の経費の上昇により、運行事業者に対する九戸村の公的支援額(補助金)は変動しながらも増加傾向にある。一方、村の支出額を抑えるために、利用状況をふまえて減便などの措置を行ってきており、1人当たり公的支援額は減少傾向にある。

しかし、サービス低下による利用者減少の負のスパイラルを招かないようにするため、効率的な運行による経費の抑制と、必要な支出により持続的な交通体系の維持を目指すことが求められている。

表 路線バスに対する九戸村支援額と利用者数、1人当たり公的支援額

	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2024)年度
支出額	28,670,744 円	29,456,038 円	28,689,156 円
利用者数	111,546 人	106,838 人	118,703 人
1人当たり公的支援額	257 円	276 円	242 円

※村からの補助実績がなく、全体の利用者に対して村内の乗降者数が少ない二戸久慈線を除いた集計

※九戸村公的支援額は岩手県補助控除後の額

※各年度は4～3月の合計値

3. 公共交通の課題

1. 人口減少・高齢化の進展への対応課題

移動困難高齢者の増加による公共交通が担う役割の重要性の高まり

2. 多様な利用者ニーズへの対応課題

通勤・通学・生活利用といった利用目的と地域特性による多様な利用者ニーズへの対応の必要性

3. 公共交通事業環境への対応課題

運転士の労働時間規制(2024 年問題)及び 燃料費等の高騰による事業環境下での公共交通サービスの維持・確保

1. 人口減少・高齢化の進展への対応課題

課題1. 移動手段を持たない住民への対応

高齢化に伴う運転免許返納者の増加に加えて、若年層の減少により集落内で孤立した高齢者の生活サポートが希薄化しており、今後、高齢者の公共交通に対するニーズはますます高まると予想される。このため、高齢者が利用しやすい、気軽に使える公共交通サービスの拡充が必要とされている。

課題2. 運転免許返納の促進

近年全国的に高齢ドライバーによる交通事故が増加しており、高齢者の運転免許返納の促進が求められている。しかし、集落間の距離が離れている上に代替移動手段が限られている本村においては、運転免許の返納の決断は容易ではなく、本村の 75 歳以上高齢者の運転免許人口占有率は全国平均を大きく上回る 12.2%であり、運転免許返納率は全国平均並みの 3.9%に留まっている。このため、高齢者が安心して運転免許を返納できる公共交通ネットワークの構築と運転免許返納促進制度の整備が必要である。

課題3. 公共交通に関する案内・情報周知

IT 技術の発展により、公共交通の運行情報の周知・入手手段は多様化し、時刻表や目的地までの移動・乗換案内、バスのリアル運行状況といった公共交通に係る情報は、以前より簡単に入手できるようになっている。一方で、特に後期高齢者がこうした情報ツールを使いこなすのは困難であり、紙媒体による情報提供の継続と、利用者本人に届く方法を用いた案内・周知を行う必要がある。

2. 多様な利用者ニーズに係る課題

課題4. AI デマンド交通「まさざね GO」の利用促進

これまで住民の生活路線として重要な役割を担ってきた村内循環バスに代わりある、より利便性の向上を目指して令和6(2024)年5月より、AI デマンド交通「まさざね GO」を導入している。今後、利用者の評価・要望を把握し、以前の村内循環バスの利用者だけではなく、運転免許返納者などの新しい利用者が増加するよう、利用促進を図ることが必要である。

課題5. 公共交通空白地域の解消

村内を運行する路線バスは主に国道 340 号線沿いを運行しているため、同国道から離れた集落は公共交通空白地域となっている。AI デマンド交通「まさざね GO」は村内全域を運行区域としていることから、今後、公共交通空白地域の住民も利用しやすいように運行・予約方法の周知・案内が必要である。

課題6. 周辺自治体への移動のための乗継接続性の向上

九戸村は久慈市、葛巻町、二戸市、軽米町と隣接しており、通勤や通学、通院などのために長距離路線と広域幹線路線を利用して移動する利用者がいる。そのため、域内交通は生活路線としての役割を果たしつつ、これらの長距離・広域幹線路線との乗継接続性を確保する必要がある。

3. 公共交通事業環境への対応課題

課題7. 持続的な公共交通サービスの確保

生産年齢人口と年少人口の減少に伴う通勤・通学者の減少により、公共交通の利用者は著しく減少し、特に広域幹線路線は国・県・村の補助金は増額傾向にあるが、それだけでは運行欠損額を賄えず、運行事業者の負担が大きい状況にある。加えて、近年の燃料費や部品・資材等の高騰及び、運転士の労働時間規制(2024 年問題)への対応、運転士の待遇改善による人件費増大により、公共交通サービスの維持はより困難になると予想される。

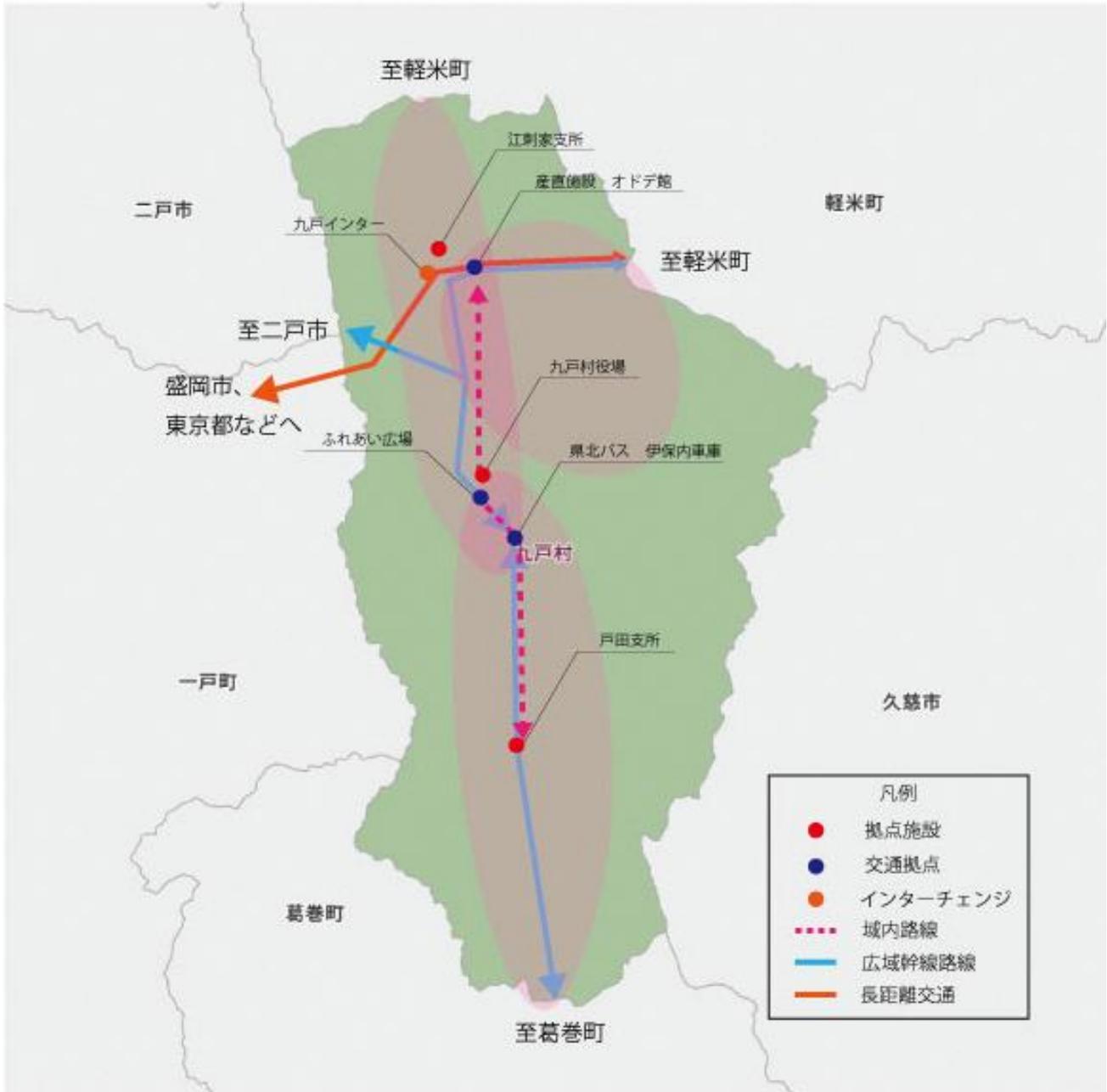
また、本村では令和7(2025)年度に5校の小学校を1校に統合する予定であり、登下校対応バス路線による遠距離通学児童数が増加する見込みである。

これらのことから、路線バス等の公共交通の運行効率化を図るとともに、多様な交通モードの連携により、減少する利用者数と多様な移動ニーズに対応できる公共交通ネットワークの構築が必要である。

4. 九戸村地域公共交通計画

九戸村が目指す公共交通の将来像

次世代につなぐ だれでも、いつでも、どこでも使える公共交通



基本方針

【方針1】すべての村民が利用しやすい公共交通ネットワークの構築

日常的に発生する様々な移動ニーズ(通勤、通学、買い物、通院等)に対応するとともに、車を運転しない・できないため移動手段を持たない住民や、地理的に利用できる公共交通手段が限られる地域の住民が気軽に利用できる公共交通環境を整え、それらの運行情報を十分に案内・周知できる仕組みの構築をめざす。

【方針2】持続的な公共交通サービスによる利便性の向上

住民の日常生活を支えるために必要なサービス水準を維持するとともに、将来にわたって運行が可能となる持続的な公共交通をめざす。

基本目標

基本目標① 域内・域外交通の移動利便性の向上

域内交通(九戸村内を運行するバス路線及び AI デマンド交通)と広域交通(隣接市町村との間を運行する広域幹線路線)それぞれについて利便性の向上を図るとともに、各交通モード間の乗継接続性を確保する。

基本目標② 高齢者が安心して利用できるサービス設計

高齢者が気軽に利用できるよう、運行方法(運行時間帯、ダイヤ、バス停設置場所、支払方法など)について、様々な観点での利便性を確保し、高齢者が過度に自動車に依存しないで移動が可能となることをめざす。

基本目標③ 誰でも、どこでも使える公共交通へ

気軽に利用でき、すべての居住エリアに対応する運行ネットワークの構築と、住民、来訪者問わず公共交通に関する情報を容易に入手しうる多様な媒体による情報発信を可能とする実施体制の整備を図る。

基本目標④ 通勤・通学に使いやすい路線の構築

通勤・通学で使いやすい公共交通サービスへの見直しと充実したバス定期券助成制度の構築をめざす。

基本目標⑤ 効率の良い輸送体制の構築

各交通モードの役割を十分に発揮し、効率の良い運行体制を整備することにより、持続的な公共交通ネットワークの構築をめざす。

5. 計画目標と評価指標

施策・事業の実施による基本目標の達成状況を適切に効果測定するため、それぞれの基本目標に対して、指標・数値目標を設定し、評価スケジュールに沿ってモニタリングを行い、目標の実現を推進する。

基本目標① 域内・域外交通の移動利便性の向上

評価指標	現況値	目標値
評価指標① 広域幹線路線と域内交通の利用者数	118,703 人 (令和5年度)	111,565 人 (令和10年度)

基本目標② 高齢者が安心して利用できるサービス設計

評価指標	現況値	目標値
評価指標② 後期高齢者免許自主返納率	3.9% (令和5年)	5.0% (令和10年度)

基本目標③ 誰でも、どこでも使える公共交通へ

評価指標	現況値	目標値
評価指標③ A: AI デマンド交通利用登録者数	252 人 (令和6年5月)	1,341 人 (令和10年度)
B: AI デマンド交通年間利用者数	3,360 人 (令和6年度)	5,952 人 (令和10年度)

基本目標④ 通勤・通学に使いやすい路線の構築

評価指標	現況値	目標値
評価指標④ 通学定期バス助成の申請人数	36人 (令和5年度)	40 人 (令和10年度)

基本目標⑤ 効率の良い輸送体制の構築

評価指標	現況値	目標値
評価指標⑤ 利用者1人あたりの九戸村公的支援額	242 円/人 (令和5年度)	242 円/人 (令和10年度)

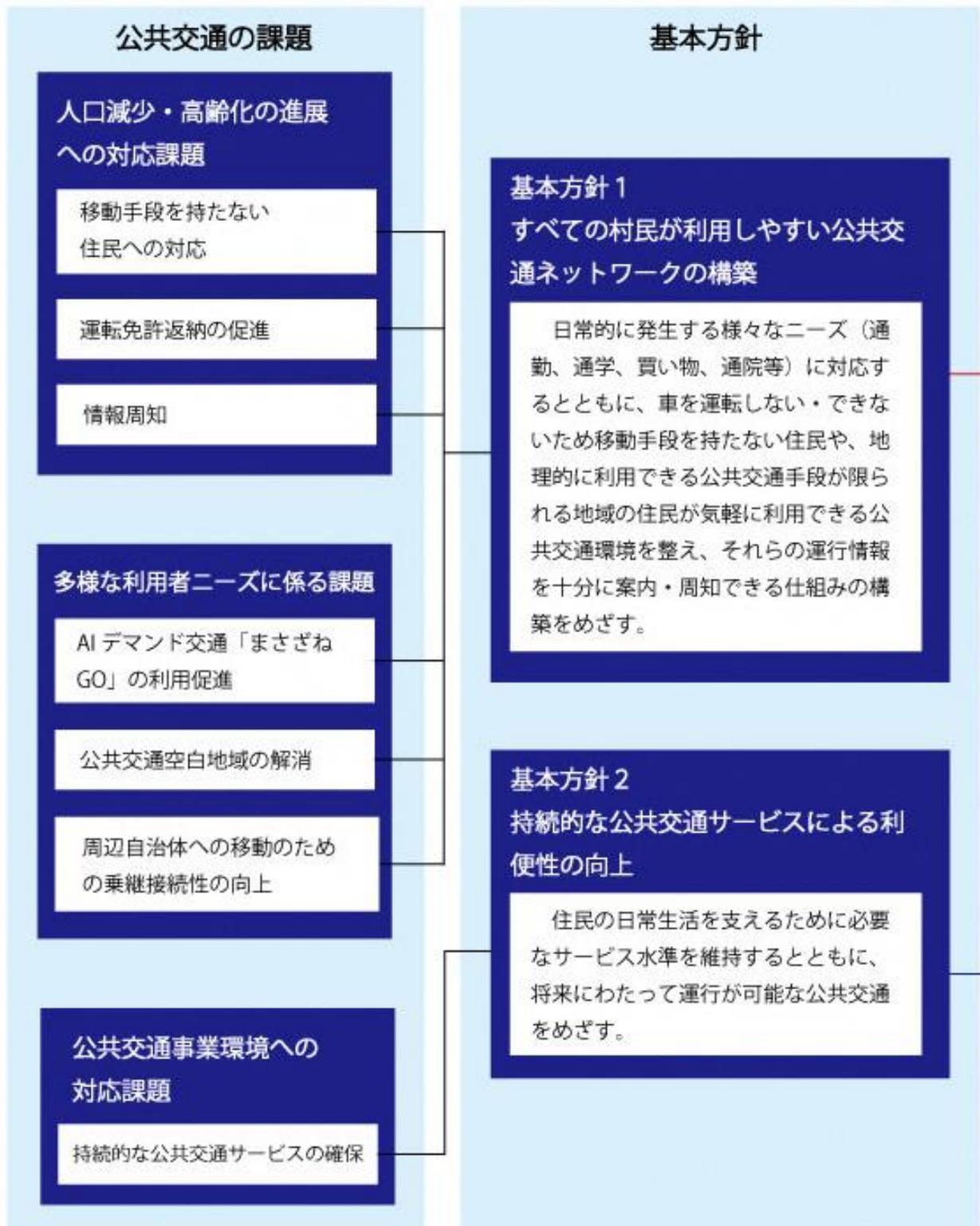
⇒(参考)P36,37 評価指標の設定根拠

6. 基本方針・目標を実現するための施策・事業

(1) 施策体系

本計画の基本方針と基本目標を実現するために実施する施策・事業の関係性を以下のように整理する。

次世代につなぐ だれでも、いつ



九戸村が目指す姿

でも、どこでも使える公共交通

基本目標

基本目標①

域内・域外交通の移動利便性の向上

<評価指標>

広域幹線路線と域内交通の利用者数

基本目標②

高齢者が安心して利用できる
サービス設計

<評価指標>

後期高齢者運転免許自主返納率

基本目標③

誰でも、どこでも使える公共交通へ

<評価指標>

A.A I デマンド交通利用登録者数

B.A I デマンド交通年間利用者数

基本目標④

通勤・通学に使いやすい路線の構築

<評価指標>

通学定期バス助成の申請人数

基本目標⑤

効率の良い輸送体制の構築

<評価指標>

利用者1人あたりの九戸村公的支援額

公共交通施策

個別施策①

地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統
の確保維持

個別施策②

幹線路線の運行見直し

個別施策③

A I デマンド交通「まさざねGO」の利便性向上

個別施策④

学校統合に伴う通学手段の確保

個別施策⑤

通学定期バス助成の継続と
通勤定期バス助成の検討

個別施策⑥

運転免許証返納者支援事業の継続

個別施策⑦

タクシー利用費助成の継続

個別施策⑧

公共交通の利用促進と情報発信

それぞれの施策が適切に実行されることにより、
効率の良い輸送体制が構築される

(2) 公共交通施策

個別施策① 地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統の確保維持					
関連目標	基本目標①				
施策内容	I. 国の「地域公共交通確保維持改善事業」における補助制度を活用し、九戸村と二戸市、久慈市を結ぶ「地域間幹線系統」と、九戸村内の移動を担う「地域内フィーダー系統」の確保維持に取り組む。				
実施主体	九戸村、交通事業者				
スケジュール					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I	実施	実施	実施	実施	実施

地域公共交通確保維持改善事業の対象系統について、次頁に事業の概要及び必要性を整理する。



図 確保維持改善事業の対象系統(地域間幹線系統、地域内フィーダー系統)

表 地域公共交通確保維持改善事業の対象系統の概要と必要性

系統名	起点・終点	運行主体	事業許可区分	補助事業の活用区分
二戸線	伊保内営業所～ふれあい 広場～長興寺～二戸駅前	岩手県北自動車	一般乗合旅客自動 車運送事業 (定時定路線)	地域間幹線系統補助
二戸久慈線	二戸駅～オドデ館～久慈駅	ジェイアールバス 東北	一般乗合旅客自動 車運送事業(定時 定路線)	地域間幹線系統補助
まさぎね GO	岩手県九戸郡九戸村内全 域	岩手県北自動車	一般乗合旅客自動 車運送事業(区域 運行)	地域内フィーダー系統補 助

系統名	地域公共交通確保維持改善事業の対象系統の必要性
二戸線	<ul style="list-style-type: none"> ● 九戸村と二戸市を結び、九戸村内から二戸駅、二戸市内の市街地、二戸病院までの日常利用(通勤・通学・買物・通院)及び、二戸市内から九戸村内の伊保内高校への通学利用に対応しており、沿線地域の住民の生活を支える重要な役割を担っている。 ● 一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
二戸久慈線	<ul style="list-style-type: none"> ● 九戸村と二戸市及び久慈市を結び、九戸村内から二戸駅や久慈駅までの利用(通勤・通学・買物・通院)に対応しており、沿線地域の住民の生活を支える重要な役割を担っている。 ● 一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
まさぎね GO	<ul style="list-style-type: none"> ● 九戸村内の日常利用(買物・通院)に対応している。 ● 路線バスの停留所から離れた集落や、高齢者などの運転免許を保有しない住民の移動手段として、村内の重要な移動手段としての役割を担っている。 ● 一方、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

個別施策② 幹線路線の運行見直し					
関連目標	基本目標①				
施策内容	I. 人口減少や運転士不足の社会情勢、時間帯による移動特性、接続拠点や生活施設へのアクセス性を考慮し、運行回数や運行ダイヤの変更等、運交通事業者と協議して、運行内容について必要な見直しを行う。運行内容の見直しにあたっては、通勤・通学でも利用しやすいように利用者や沿線住民の意見を踏まえた検討を行う。				
実施主体	九戸村、交通事業者				
スケジュール					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I	実施	実施	実施	実施	実施
					
これまでの取組・参考事例					
【幹線バス運行内容変更の変遷】					
令和2年4月1日改正	二戸線減便 葛巻線減便 村内循環バス増便				
令和2年12月1日改正	村内循環バス減便				
令和3年2月12日	二戸線運行ダイヤ変更				
令和3年4月1日	葛巻線ダイヤ変更				
令和3年12月4日	二戸線減便				
令和4年12月1日	二戸線運行ダイヤ変更				
令和6年6月1日	二戸線減便				

個別施策③ AI デマンド交通「まさざね GO」の利便性向上

関連目標	基本目標①②③
施策内容	<p>I. 利用者のニーズに応じたサービスを提供するため、乗降記録、利用者や住民の意見をもとに、定期的な運用改善検討会での協議を踏まえ、運行内容の必要な見直しを行う。</p> <p>II. すべての住民が平等に利用しやすいよう仮想バス停の設置位置を定期的に見直すことにより、交通空白地帯を解消する。</p> <p>III. AI デマンド交通「まさざね GO」から各路線の乗り継ぎ利便性の向上のため、「まさざね GO」の運行時間の見直しを協議する。</p>
実施主体	九戸村、交通事業者

スケジュール

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
I・II・III	実施	実施	実施	実施	実施

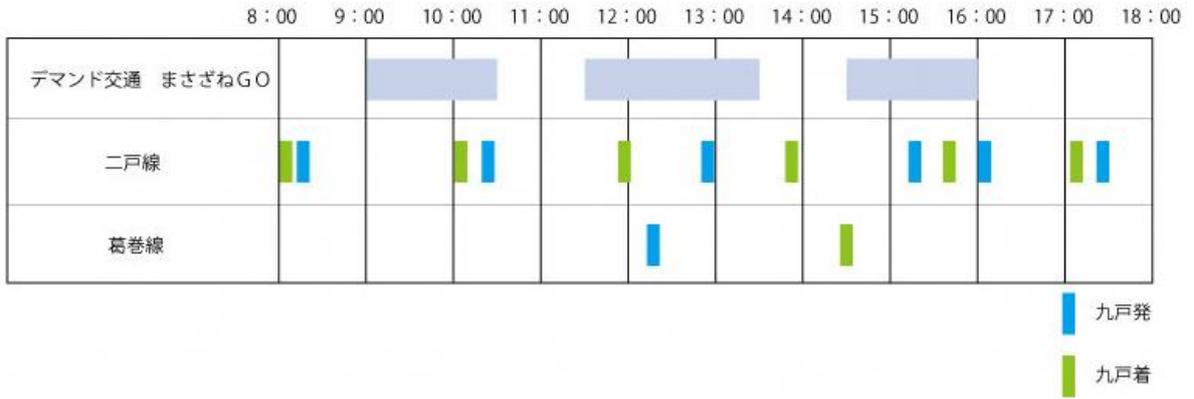
これまでの取組・参考事例

まさざね GO の利用ガイド・バス停マップ

まさざね GO の車両とゴミステーション



AI デマンド交通まさざね GO の運行時間と幹線バスの村内中心部運行時間



個別施策④ 学校統合に伴う通学手段の確保

関連目標	基本目標③④⑤
施策内容	I. 令和7年度に予定されている学校統合に伴う通学手段の確保及び、AI デマンド交通「まさだね G0」の運行時間外である早朝と夕方の一般利用者の移動手段を確保するため、各地区から伊保内地区までの運行を予定している登下校に対応する路線バスへの一般利用者と小中学生の混乗化を検討する。
実施主体	九戸村、交通事業者

スケジュール					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I	検討 	実施 	実施	実施	実施

これまでの取組・参考事例

令和4年度運行実績

【直営】小学校の登下校対応バス路線

学校	運行回数	利用人数	備考
戸田小学校	2	3,280 人	登下校
長興寺小学校	1	2,050 人	登校
長興寺小・江刺家小	1	3,895 人	下校

【委託：岩手県北自動車】中学校の登下校対応バス路線

方面	運行回数	利用人数	備考
戸田	2	17,425 人	登下校
伊保内	2		江刺家便は帰路のみ
江刺家	1		

個別施策⑤ 通学定期バス助成の継続と通勤定期バス助成の検討																					
関連目標	基本目標④																				
施策内容	I. 広域幹線路線の利用促進と通学者の負担軽減のため、村商業協同組合商品券による通学定期券購入助成を実施しており、今後も継続する。 II. 幹線路線の利用促進と通勤者の負担軽減のため、交通事業者の通勤定期券購入助成を新たに実施する。																				
実施主体	九戸村、交通事業者																				
スケジュール																					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度																
I	実施	実施	実施	実施	実施																
II	検討																				
これまでの取組・参考事例																					
<p>【岩手県立伊保内高等学校通学定期券購入助成事業】</p> <p>バス路線を利用して村内にある岩手県立伊保内高等学校に通学する生徒の通学定期券の購入を助成することにより、子どもの教育に係る経済的負担を軽減するとともに、バス利用者の増加と利便性の向上を図り当該バス路線の存続維持に資することを目的とする。(助成率:100%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年</th> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請者数</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【高等学校通学定期券購入助成事業】</p> <p>バス路線を利用して村外の高等学校に通学する生徒の通学定期券の購入を助成することにより、子どもの教育に係る経済的負担を軽減するとともに、バス利用者の増加と利便性の向上を図り当該バス路線の存続維持に資することを目的とする。(助成率:20%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年</th> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請者数</td> <td>34人</td> <td>21人</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table>							令和3年	令和4年	令和5年	申請者数	7人	9人	17人		令和3年	令和4年	令和5年	申請者数	34人	21人	19人
	令和3年	令和4年	令和5年																		
申請者数	7人	9人	17人																		
	令和3年	令和4年	令和5年																		
申請者数	34人	21人	19人																		

個別施策⑥ 運転免許証返納者支援事業の継続

関連目標	基本目標②
施策内容	I. 運転免許証を返納による移動手段の喪失に対する対策や公共交通の利用促進、病気や加齢による運転技術の低下が引き起こす交通事故の抑制を図るため、運手免許返納者に対する地域連携 IC カードの交付を継続する。
実施主体	九戸村

スケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I	実施	実施	実施	実施	実施



これまでの取組・参考事例

【運転免許証返納者支援事業】

運転免許証を返納したことで、日常生活での交通手段を失った者に対し、1人につき 20,000 円を限度とし地域連携 IC カードを交付することにより、公共交通の利用促進及び、病気その他の事情により運転に不安がある者が加害者となる交通事故の抑止を図ることを目的とする。

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
交付人数	16人	12人	8人	9人	7人

個別施策⑦ タクシー利用費助成の継続

関連目標	基本目標②③
施策内容	<p>I. 令和2年の一戸線廃止に伴い、通院等の不便を解消するためタクシー利用に要する経費の一部を助成しており、これを今後も継続する。</p> <p>II. 令和6年5月の循環バス減便に伴い、75歳以上高齢者に村内移動手段を確保するため、タクシー利用に要する経費の一部を助成しており、今後もこれを継続する。</p>
実施主体	九戸村

スケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I、II	実施	実施	実施	実施	実施



これまでの取組・参考事例

【九戸村タクシー利用費助成事業】

一戸線の定期路線バス廃止に伴う通院等の不便を解消するためのタクシー利用に要する費用の一部を助成することにより、生活に必要な交通手段を確保することを目的とする。

	令和3年	令和4年	令和5年
申請者数	49人	44人	59人

【九戸村75歳以上タクシー利用費助成事業】

村内の高齢者が住み慣れた地域で引き続き生活することを支援するため、村内の移動にかかるタクシー料金について、1人につき月1回、2,000円を上限とし初乗り運賃を除いた額を助成するもの。

	令和6年5月
申請者数	27件

※令和6年5月1日開始

個別施策⑧ 公共交通の利用促進と情報発信

関連目標

基本目標③

施策内容

I. 公共交通の周知を図るため、時刻表、運賃、交通系 IC カード、バスロケーションシステムなどの情報を村 HP に公開し、その情報更新を行う。また、運行回数や運行ダイヤの変更については、村 SNS や広報誌などにより周知する。

II. インターネットの利用が難しく情報の収集が容易でない高齢者に対して、広報誌やチラシなどの紙媒体による情報周知を徹底する。

III. 高齢者を対象とした AI デマンド交通「まさぎねGO」の説明会や試乗会を開催し、まさぎねGOの予約及び利用方法の周知を行う。

IV. AI デマンド交通「まさぎねGO」をはじめとした公共交通に対して親しみを持てるよう、高校生を対象としたまさぎねGOによる地域活性化を検討するワークショップ開催や試乗会を開催する。

実施主体

九戸村

スケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
I・II・III・IV	実施	実施	実施	実施	実施

これまでの取組・参考事例

バスロケーションシステムと地域連携 IC カード(岩手県北自動車)



地域連携ICカード「iGUCA (イグカ)」
2022年2月19日サービス開始!



「iGUCA (イグカ)」は、
岩手県北バスとジェイアールバス東北 (岩手県内の一部)
の路線バスで使える便利でおトクな交通系ICカードです。

まさぎねGOの利用ガイド・バス停マップ

6. 計画の達成状況の評価

6-1 評価スケジュール

本計画に位置付けた各種公共交通施策を着実に推進し、より効果を発揮できるよう、計画策定後の各施策の実施状況・達成状況の評価を書き示すスケジュールで実施することとする。

【計画期間中のスケジュール】

- 毎年度：施策検討、施策実施、評価検証、改善策検討
- 最終年度：最終評価・次期計画策定

【毎年度のスケジュール】

				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
地域公共交通計画	個別施策	実施														
		実施状況把握														
		改善・検討														
	評価指標	データ収集・提出														
		評価準備														
	公共交通会議 (個別施策・評価指標の評価)															
確保維持改善事業	地域内 フィーダー 系統	認定申請														
		補助交付申請														
		自己評価														
	公共交通会議 (認定申請に向けた協議・承認)															

凡例



村



各戸別施策の事業主体



九戸村地域公共交通会議



運輸局への報告

7. 計画の推進力

7-1 推進体制

利用者である村民や交通事業者等の関係主体が、本計画を理解・共有し、推進していくことが重要である。そのため、村が中心となって、本計画の周知と関係主体間の連携を進める。

また、本計画に基づく公共交通施策は、まちづくりの一環として、公共交通の利用者、村民、地域、企業、学校、交通事業者、村などの多様な関係主体が連携・協力して進める。さらに、国や県等との関係機関との連携・協力を図りながら、本計画を推進することとする。

推進体制と各体制の役割

- ① 法定協議会：短期的な見直し・改善や中・長期的なプロジェクトの検討等を継続的に検討する。
 - 九戸村地域公共交通会議
- ② 行政：計画全体のコーディネート役として管理を行うとともに、公共交通の維持・改善の取り組みを行う。
- ③ モニタリングチーム：定期的・継続的に連携・共有・協議
 - 幹線バスに関するモニタリング：九戸村・関係市町村との検討会・岩手県北自動車の定例会・
 - デマンド交通に関するモニタリング：デマンド交通見直し検討会（九戸村・岩手県北自動車・その他関係主体）
 - その他公共交通に関するモニタリング：九戸村 IJU 戦略室

<資料編>

(1) 住民アンケート

(1)-1 調査概要

期間:令和5年11月1日~11月30日

対象:村内全戸配布

回答:配布されたアンケート用紙もしくは用紙のQRコードから回答フォームより回答

回答件数:178件

(1)-2

(1) 回答者の概要

問1. 性別

	回答数	構成比
男性	65	36.9%
女性	111	63.1%

問2. 年齢

	回答数	構成比
10代	1	0.6%
20代	0	0%
30代	7	3.9%
40代	5	2.8%
50代	19	10.7%
60代	49	27.5%
70代	40	22.5%
80代以上	57	32.0%

○60代以上の回答者が82%にのぼり高齢者の関心の高さが見て取れる。

問3. 職業(自由回答)

	回答数	構成比
無職	68	48.6%
農業	29	20.7%
会社員	23	16.4%
公務員	5	3.6%
パート	4	2.9%
自営業	3	2.1%
学生	1	0.7%
その他	7	5.0%

○無回答が38件あり、高齢者の回答者が多かったことから、無回答者のほとんどが無職と推察する。その

場合、「無職」の構成比は 60.6%となる。

問4. 居住地

	回答数	構成比
戸田	12	6.7%
山根	26	14.6%
荒谷	2	1.1%
伊保内	45	25.3%
小倉	9	5.1%
長興寺	27	15.2%
雪屋	8	4.5%
山屋	1	0.6%
江刺家	48	27.0%

問5. 運転免許の有無

	回答数	構成比
有り	112	62.9%
無し	66	37.1%

問6. 最も使用する移動手段

	回答数	構成比
自分で運転	108	61.7%
公共交通	34	19.4%
家族の送迎	21	12.0%
その他(徒歩など)	12	6.9%

問7. 免許返納について

	回答数	構成比
考えていない	88	77.9%
考えているが移動手段がなくなるので出来ない	17	15.0%
検討している	8	7.1%

○回答 113 件 免許未所持の方は無回答として入力。

(2) バスの利用について

問8. バスを利用していますか

	回答数	構成比
はい	57	32.6%
いいえ	118	67.4%

○はい→問9～問12 いいえ→問13～

○免許未所持 66件

問9. 利用している路線はなんですか(複数回答)

	回答数	構成比
循環バス	46	85.2%
二戸線	36	66.7%
葛巻線	6	11.1%
軽米線(オドデ館乗入)	4	7.4%

N=54

問10. 利用目的(複数回答)

	回答数	構成比
診療センター	37	77.1%
買い物	32	66.7%
役場	17	35.4%
通勤	2	4.2%
通学	1	2.1%

N=48

問11. 利用満足度(1～5点評価制)

	有効回答数	評価平均
行き先・運行経路について	53	3.64
運行本数・間隔について	49	2.84
始発・終発時刻について	51	3.12
他路線や交通機関への乗り継ぎについて	48	2.83
運賃について	50	3.68

○「その他」の意見は「5. 自由記入欄」に記載

問12. 循環バスからデマンド交通に運行形態が変わった場合利用しますか

	回答数	構成比
はい	39	70.9%
いいえ	1	1.8%
どちらともいえない	15	27.3%

(3) 非利用者回答

問13. バスを利用しない理由はなんですか(複数回答)

	回答数	構成比
必要ない	85	73.9%

経路が合わない	26	22.6%
運行時間が合わない	36	31.3%
乗り方がわからない	4	3.5%

N=115

問 14. 問 13 の問題が解決されればバスを利用したいですか

	回答数	構成比
はい	72	70.6%
いいえ	30	29.4%

利用したい路線はなんですか(複数回答)

	回答数	構成比
二戸線	58	85.3%
循環バス	34	50.0%
軽米線(オドデ館乗入)	16	23.5%
葛巻線	9	13.2%

N=68

問 15. 循環バスからデマンド交通に運行形態が変わった場合、利用しますか

	回答数	構成比
はい	38	35.8%
いいえ	14	13.2%
どちらともいえない	54	50.9%

(2) 評価指標の設定根拠

(2)-1 評価指標①

<算定方法> 幹線バスと地域内交通の年間利用者数の合計

<使用データ> 交通事業者が提供する年間利用者数

幹線バス: 二戸線、葛巻線、軽米線

地域内交通: まさざね GO、村内循環バス、登下校対応バス路線(小中学生は除く一般利用者のみ)

<設定根拠> 令和5年から令和6年度の人口減少率は2.6%減であったため、公共交通利用者数ではこの減少率よりも緩やかなペースでの減少を抑えることを目標とし、利用者数の目標値は年1.3%減で算出する。

(2)-2 評価指標②

<算定方法> ①免許自主返納者÷②高齢者免許保有者×100

<使用データ> ①警察が提供する九戸村在住の75歳以上の免許自主返納者数

(2)-3 評価指標③

A: AI デマンド交通登録者数

<算定方法> AI デマンド交通の累計登録者数

<使用データ> 交通事業者が提供する AI デマンド交通の累計登録者数

※現況値は令和6年5月末時点の累計登録者数

<設定根拠> 現在の後期高齢者人口が1,341人であることから、後期高齢者全員の登録を目指すもの。

B: AI デマンド交通利用者数

<算定方法> AI デマンド交通の年間利用者数

<使用データ> 交通事業者が提供する AI デマンド交通の年間利用者数

※現況値は令和6年5月の月合計利用者数を年換算

<設定根拠> まさざね GO の運行により、従前の循環バスよりも利用者数を増加させることを目標とし、令和5年度の九戸村循環バスの利用者数の10%増を AI デマンド交通利用者数の目標値と設定する。

(2)-4 評価指標④

<算定方法> 通学定期バス助成の年間申請人数

<使用データ> 九戸村が把握する通学定期バス助成の申請者数

<設定根拠> 村内の年少人口は減少し続けているものの、伊保内高等学校魅力化支援事業により村外からの伊保内高等学校への入学者が増加していることから、現状維持を目指す。

(2)-5 評価指標⑤

<算定方法> ①九戸村の公的支援額(補助額・委託額)÷②年間利用者数

<使用データ>①九戸村が把握する対象路線に対する九戸村の公的支援額(補助額・委託額)の合計額

②交通事業者が提供する対象路線の年間利用者数

<対象路線>幹線バス:二戸線、葛巻線、軽米線

地域内交通:まさざね GO、村内循環バス

<設定根拠> 評価指標①で設定した利用者数は現況値の 93.7%であるため、公的支援額(補助額・委託額)が現状維持でも、利用者1人当り公的負担額は増加していくことになるが、本計画では利用者1人当り公的支援額を現状維持とすることを目標にする。